

第2回検討部会（2022/8/22）の意見交換

大分類	小分類	説明（●）・意見（○）
1. 丸森の中心街の観光戦略、観光交流センター・水防センターの役割およびフットパス（川風トレイル）	中心市街地の活性化	<p>●現在の県道、主要地方道の丸森霊山線と町道の鳥屋竹谷線の機能の交換により齋理屋敷前のところを町道化し、寺角商店の交差点から商工会までの区間を車道境界のコンクリートブロックの撤去や、カラー舗装化、電力柱と電信（電話）柱の共用化、さらには、通りに面した住宅や店舗等の外観を統一することで街並みの散策エリアとしての整備を計画している。（商工観光課）</p> <p>○中心市街地との連絡を保つように、阿武隈急行に対応できる「るんるん号」を活用した防災ステーションへのバスルートを検討する。</p>
	本課題についてのとりまとめ（平野部会長）	<p>○新しい生まれ変わりの演出をしながら、舟下りの発着場を河川防災ステーションに移す。</p> <p>○拠点の演出方法は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ① サップ、カヌー、ラフティングなどの水上レジャーの展開 ② 特色ある飲食店1店（丸森でしか味わえない、若い女性に受ける）の開設 ③ リピーターを確保するために、阿武隈川を上流から下流まで楽しめるフットパス「川風トレイル」をみんなで整備する。できれば広域連携で亘理の「鳥の海」温泉まで。
	舟下りの発着場を河川防災ステーションに移す	<p>○船着場は、防災ステーションに集約したい。</p> <p>○位置を変更するのであれば、運用の仕方もセットで議論すべきである。</p> <p>○建物は除却して、船の降り場として利用する。階段護岸は壊さないでそのままにしておく。</p> <p>○阿武隈ライン舟下りは生まれ変わりましたというふうには、いきなり全部変わるように仕掛けないと、あのイメージのまま変わらない。</p> <p>○いずれにせよ移転は良いタイミングなので、そこで本気で生まれ変わりましたというイメージチェンジと、それに見合った単価をちゃんと上げる、そのように新しいビジネスのやり方に切り替えられると良い。</p> <p>●管理の候補者として3つを考えている。①公社、②商工会（事務所として入りたいという希望がある）、③伊具緑化（芝生広場などの管理）の3者である。3者が、個別に携わるのか、あるいは新しい団体を立ち上げるのか、方法はいろいろ考えられる。（総務課）</p> <p>○2年の期間があるから、考えてほしい。新法人作って、その新法人が運営する形にする。新法人を作るときに、代替わりもすればいいのではないか。</p>
	サップ、カヌー、ラフティングなどの水上レジャーの展開	<p>○サップ・カヌーの新しい展開に期待。</p> <p>○富野駅か兜駅からラフティングができないか？</p> <p>○できますね。兜駅からあぶくま駅でもいい。</p> <p>○景色もすばらしい、阿武隈川の狭窄部分ってものすごいポテンシャルがある気がする。</p>
河川防災ステーションの飲食物販機能	<p>○前回、半澤さんが話してくれた「A2牛乳（おなかでごろごろしない牛乳）」のようなスペシャル感があるテナントが必要である。</p> <p>●フルーツサンドで人気のある「MARUMORI CAFÉ」、館矢間にある「カワカフェ」などを候補として考えている。（総務課）</p> <p>○若い女性が来たいと思う店であることが条件のひとつ。ここでしか食べることができない、ここにしかない食材を提供できることがもう一つの条件。</p> <p>○テナントに入る人たちの自助努力だけではなく、入ったからには全力でサポートするよう町を挙げて取り組むことが大切。</p> <p>○店舗を複数入れるやり方とキッチンカーをいくつか集めるやり方があると思う。お店は1店舗でもキッチンカーの利用で2店舗にも3店舗にも増やすことができる。キッチンカーが平時に来ていて、災害時にも応援に来てくれる可能性がある。</p> <p>●施設内に厨房ありの店舗が1軒はほしい。有事の際に炊き出しをしてもらうため。（総務課）</p> <p>○キッチンカーは週末には3から4台、平日は1台のように幅を持たせるやり方もある。</p> <p>○1店は単価が高いお店、安く済ませたい人はキッチンカーを利用、という組み合わせがいい。</p>	

大分類	小分類	説明 (●)・意見 (○)
1. 丸森の中心街の観光戦略、観光交流センター・水防センターの役割およびフットパス (川風トレイル)	川風トレイル (できればロングトレイル)	<p>○トレイルは、利用者は少ないかもしれないが、みなさん歩くので滞在時間はかなり長い。</p> <p>○プロ級の方は自分で食料を準備するが、アマチュアの方は歩く途中で食事したりお土産買ったりしてくれる。リピーターも多いので面白かったらまた歩こうとなり、観光としては案外可能性があると思う。</p> <p>○トイレを設ける。いろいろなコースを提供する。</p> <p>○阿武隈沿川を歩くロングトレイルを考えてみてはどうか。ただし堤防沿いだけではつまらない。例えば、亘理の温泉 (鳥の海) がゴールのような広域連携を視野に入れたルートなどを考える。</p> <p>○トレイルは、町と町民が協力して、「道普請」のような考え方でお金をかけずに造る。</p>
	右岸のフットパス	<p>○丸森大橋から丸森橋までの間、すごく大事だと思う。「これお城だったんだ」って川を見ながらの方が絶対楽しい。河川環境整備事業か何かでこの川べりをもっと快適に楽しく歩ける場所にするのがポイントのような気がする。</p> <p>○水辺の散策路、特に右岸側は、これ丸森町にとって肝でしょ。舟運としても歴史的にも多分このところがすごく肝で、しかも、渡し船3ヶ所という話、それが大事なお城側の交流拠点だったわけで、右岸側のこのフットパス相当な部分を河川の (国の) 方でどこまでできるのか、できないところを町がどこまでできるのか、できないところをみんなで作ろうみたいな話として、この水辺の魅力をバージョンアップしていくと。今普通に車で走っていると特にこの辺は、途中までなんとなく綺麗に見えても、結局パラペットの向こう側で見えなくなっていて、なんか近づき難いような場所にしか見えない。すごいもったいないんだよ。歴史的に結構重要な魅力だと思いますので、この街にとって、ここがもうちょっと活用できるようなことも考えていただけたらと思う。</p> <p>○そうですね。歩いてみる価値あります。</p> <p>○必要ですよ。</p>
	MARUMORI-SAUNA 2	<p>○フィンランドサウナとは、サウナに入る前にどう過ごすか、サウナの中でどう過ごすか、出てからどう過ごすか、全部の体験がサウナだという考え方です。</p> <p>○計画地は、サウナに入る前に、トレイルを楽しんだり、自転車でサイクリングしたり、歴史に触れたりとか、いろいろなコンテンツ作れるのではないかと思います。</p> <p>○サウナ終わって、町内の飲食店に行って、民泊や旅館に泊まって帰ることも可能になる。</p> <p>○2Fの方がいいですね。見晴らしもいいし、ここのロケーションの良さは風の抜け感かなと思う、川沿いの。</p> <p>○一旦こっち (防ステ) でもうちょっとグレードを落として、ロケーション気持ちいいね、風きもちいいねみたいな体験をすると、おそらくトレイルとか、キャンプ場とか、そういういろんなアクティビティにもうちょっと入りやすい環境に繋がれると思う。</p> <p>○秀一さんがサウナ棟を純民間建築として立てるっていうのもありかな。もちろんしかるべき枠組みを作ってね。</p> <p>○水防センターに取り込むんじゃなくて、別棟でするのもありだっている。</p> <p>○相乗効果が出る。水防センターに入ると設計が難しくなる。</p> <p>○癒し系が今のキャンプ場のところで、こっちはもっとアクティブですよ、SUP やったりとか。アクティブな活動のストーリーの最後にサウナがあってっていうような。</p> <p>○単価も差別化して、もう少し安くするとか。エントリーレベルで。</p> <p>○前回、純粹に水防センターでもいいんだよっていう話をちょっとしましたけど、今の話でどんどん充実させて、わざわざ来てもらえる場所にきちんと作っていかうという方向性を、町の総力を挙げてやっていかうと。ざっくりまとめるとそういう世界かと思います。</p>
	防災ステーションの植栽について	<p>○防災資材の必要性は理解するが、平常時には緑で隠すことも必要だと思う。</p> <p>○芝生広場やマルシェの会場も炎天下にいるような状態になる。訪れた人が居心地よく過ごせるような緑の導入が必要だと思う。</p> <p>○防災資材の際のL字部分は、土塁を設けその上に中低木の植栽を入れて、目隠しをするなどの工夫がほしい。</p> <p>○芝生広場についても、防根シートで囲って高木が育つだけの土を確保して、緑陰をつくってほしい。日常利用を考えると木陰ゼロは厳しい。</p> <p>○ヘリポート周辺やマルシェの会場についても、木陰をつくる工夫を検討してほしい。</p>

大分類	小分類	説明 (●)・意見 (○)
1. 丸森の中心街の観光戦略、観光交流センター・水防センターの役割およびフットパス（川風トレイル）	防災ステーションの日常利用	<p>○ここの広い空間を活用した、広い滑り台、好きに遊びなさいみたいな空間だと面白いかなと思う。3割堤だと滑らないので、2割堤がいい。</p> <p>○町内でも同年代だったり、女性だったり、丸森で次世代の子供さんたちの遊ぶ遊具がないよねという話になる。子供の保育所の帰りにちょっと遊ばせて一時間二時間とか、そういうようなところが少ない。学校も丸森小学校、館矢間小学校は近くにあるので。</p> <p>○学生さんは、基本スクールバスとか乗りっぱぐれてしまうと行くところないんです。</p> <p>○勉強して待ってられるような都会のファミレス使い、受け皿がない。</p> <p>○高校生然り、町内の大学生も、家以外の居場所がない。そういった部分があると結構、もっと活用性っていうか平常時、平日の活用ができるんじゃないかなと。</p> <p>○石田沢の防災センターがテレワークできるように個人個人の机が置いてあるんですよ。そこには何人か利用者いました。貸し出ししているの。</p> <p>○居場所のない高校生は確かにたくさんいるよね。ちょっとそれは施設配置のときに参考にさせていただいて、検討していきましょう。学習展示のゾーンを作らなきゃいけないので、その無料コーナー絶対必要ですから。ありがとうございます。</p>
2. 対岸の高水敷を含めた新たな展開		<p>●これまでは、河川管理者が高水敷の樹木を伐採し処分していた。最近、実際に使いたい方に伐採をお願いし、伐採した樹木等を持ち帰っていただくというやり方が増えてきている。この場所につきましては、伐採を公募により行いまして、例えば伐採はチェーンソーを利用した訓練に利用するというやり方は可能である。（国交省）</p> <p>●樹木の伐採については、民間でやるか、国交省の工事でやるか、調整は可能である。（国交省）</p> <p>○下流の高水敷は国交省さんが樹木を伐採し、（半澤さんの酪農組合が）牧草地として利用している。対岸も同じようなことができないかと思っている。牧草地だけではなく、春に菜の花・夏にひまわりを咲かせたいと考えている。</p> <p>○景観のために姿形の良い木は残す。点々と下草がない高木の姿は結構美しいですので、そういう姿を残してハゲ山にはしないようにしましょう。</p> <p>○河川管理者が上手に伐採してもらった上で民間利用するっていう方がよい気がします。そこも含めてご検討いただきたい。</p>
3. 水辺の楽校の展開		<p>○水辺の楽校をつくる内川は、サケが上る。川遊びには最高の場所だと思う。サケの遡上を見る、放流もする、そういうことは子供にとって良いこと、実際の川でやっているから。ここは、桜づつみから遊びに来てもいいし、河川防災ステーションから遊びに行ってもいい良い場所だ。</p> <p>○ここ二、三年、台風の後、だいぶサケの遡上がほとんどないような状態である。濁り水が一番の天敵、サケにとっては。内川はほとんど遡上してないが、阿武隈本流は遡上している。</p> <p>○台風前は年に1回、小学生が4月に稚魚の放流をやっていた。近場で親水公園的な施設があれば、安全に小学生に体験をさせることができるので、このような整備を期待する。</p> <p>○飛び石のところに、板でもさしてそのときだけ水溜めるようにすると、着衣水泳などができるようになる。</p> <p>○内川の川の特長（水理条件、地形条件など）を踏まえて、維持管理が容易な計画案を作成してほしい。</p>